

#### 4. 総括研究報告書

##### 課題 5

### 糖尿病性末期腎不全患者における

### 足病重症化予防に対する腎移植の有用性の検討

研究目的は糖尿病性末期腎不全患者において、足病、血管障害の程度を生体腎移植症例と透析症例の2群間にて多施設共同・後ろ向き観察研究にて比較検討し、足病重症化予防としての腎移植の有用性を検討する。

本邦において、糖尿病性腎症における腎移植と透析の成績を比較した研究はない。腎移植、透析患者それぞれの死亡原因を見ると、いずれも心・血管疾患と脳血管障害で全体の約1/3近くを占める。これは腎移植後も透析によって一旦進行した動脈硬化は軽快することがないためである。欧米では、移植によって透析での死亡リスクを47%減らせるとする報告(3)や、移植によって移植待機患者(透析患者)より11年生命予後の延長が期待できるとする報告(4)など、腎移植は透析と比較し、良好な生命予後とQOLの改善をもたらすことが知られている。

移植と透析の足病に対する予後の比較は今迄皆無である。透析後に腎移植を行った症例と先行的腎移植を行った症例では、前者において動脈硬化性疾患が多いという報告があることから、動脈硬化性疾患である足病においても、腎移植の効果は十分期待できることは想像に難くない。

他方、移植後5年経過した時点で、移植前から存在した閉塞性動脈硬化症が増悪した結果、趾切断を余儀なくされた症例も報告されていることから、本研究によってその実態が明らかにされることが待ち望まれる。

[平成28年度研究]

2017年1月に開催された佐賀腎臓病協会主催の「足病を考える会」において、足病重症化予防としての腎移植について講演を行った。その際、患者会からも重症化予防としての腎移植の有効性を明らかにすることを強く要請された。

また、特定非営利活動法人奈良県腎友会の定時総会記念講演会において、奈良県腎友会

と大浦研究班との合同でシンポジウムが開催された。その折のアンケートの一部は次のとおりであった。

「5. 移植登録について」お尋ねしたところ、154人中移植に関する質問の回答数52人、出席者のうち約34%の回答であった。回答の内訳は、現在登録中2人、登録中止11人、登録していないもの35人、未回答4人である。

「6. 登録を止めた、あるいは登録をしない理由をお聞かせください」の回答では、

a 登録していたが登録中止した理由

- ・いくら待ってもドナーが見つからなかったから
- ・移植が回ってこないと思ったから
- ・当たらない、順番が回ってくるとは思わないから
- ・難しい現実を知ってしまったため
- ・兄が生体腎移植後死亡したため
- ・高齢になったため若い人に移植の機会を譲りたいから
- ・多くの方がおられ、できるだけ数多くの方が命をつないで頂ければ
- ・透析導入後腎移植の登録をいたし71歳まで継続のところ、登録情報で一万人に1人の割合にて、まして年齢制限もあり、登録していても無駄と判断し取り止めた

b 初めから登録していない理由

- ・透析治療に不満なし、透析で何とか生命維持可能
- ・導入が高齢であったから、若い人に譲りたい
- ・手術で体に傷を付けるのがいやだから
- ・移植手術が不安、手術の成功率に疑問あり
- ・夫婦間の移植でも簡単にできると声大に言われるが身近に死亡例あり
- ・日本ではドナーが少ないため、移植に当選しそうにないから
- ・移植者にガン発症率が高いと聞く
- ・手術後の抑制剤の副作用が怖い
- ・あきらめ
- ・もう年だから

c その他

・年齢が高く腎移植を受けられる確率が少ないが、腎移植は是非したいので移植の推進をお願いしたい

移植学会では透析患者が“望んでいない”という報告であったが、この患者さんの登録しない理由を鑑み調査の方法を考えるべきである。

透析患者さんのほとんどが腎移植を希望していたことがわかった。ただ、現在は腎移植が少ないので諦めて登録していないことも分かった。